



TITLE:

米國ノ海外放資力

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 米國ノ海外放資力. 經濟論叢 1917, 4(5): 755-758

ISSUE DATE:

1917-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127199>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷四第

行發日一月五年六正大

論說

經濟的行爲と道德的行爲とノ關係(一).....法學博士 田島錦治

奢侈税ノ辯難.....法學博士 神戸正雄

きんぐノ法則ト米麥價.....法學士 河田嗣郎

經濟心理學ノ組織的研究(四、完)..... 米田庄太郎

支那經濟思想ノ出發點(二、完).....法文學士 小島祐馬

時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善.....法學博士 戸田海市

支那關稅引上ト日本ノ紡績業.....法學博士 神戸正雄

雜錄

米國ノ海外放資力.....法學博士 神戸正雄

獨領植民地ノ處分問題..... 山本美越乃

移民ト米國ノ勞働..... 米田庄太郎

米國聯邦農地貸附法.....法學士 河田嗣郎

雜 錄

米國ノ海外放資力

神 戸 正 雄

本編ハ近刊米國政治及社會學會誌上ニ發表サレタルるべ
つ氏ノ所論*ヲ骨子トシ、若干ノ私意ヲ加エタルモノ也

一緒言 由來此大戰前ニハ米國デハ開發スベ
キ富源大ニ、資本ノ報酬モ豊カデ、ムシロ外資
ヲ利用シ、其自身ノ資本ヲ海外ニ放下スルノ餘
裕ガ少カツタ。米國人ハ海外放資ニハ慣レナカ
ツタ。然ルニ此戰爭ニヨリ海外放資ノ途ガ開ケ
タ。戰爭ノ爲メニ此途ガ開ケタ。米國人モ段々
海外放資ニ慣レテ來タ。此ガ此戰後ニモ續クデ
アラウ。尤モ彼等ガ海外放資ニ慣レタトイフテ
モ、マダ、不慣レデハアル。尙ホ段々修養ヲ
積マナケレバナラヌガ、併シ米國ニハ益々資本
ノ増殖ノ着シキモノガアリ、而シテ海外ニハ歐
洲ニテモ戰後ノ復舊ノ爲メニ資本ノ大需要ガア
リ、南米支那等ノ未半開國ニテモ戰時中中止サ

雜 錄 米國ノ海外放資力

レタ事業ノ爲メニ資本ノ需要ノ切ナルモノノア
ル所ユヘ、假令戰時中程ノ勢デハ行ハレナイニ
セヨ、兎モ角米國ノ海外放資ハ戰後モ相當ニ大
ナルモノガアルデアラウ。試ミニ米國ニハ如何
程ノ海外放資力アリヤヲ檢シテ見ヤウ。
二米國ノ資本増加年額 先ヅ米國ノ國富ヲ見
ト、せんさすぶゆるノ報告ニ依レバ、

一九〇〇年ニハ

一九〇四年ニハ

一九一二年ニハ

1900年ニハ
1904年ニハ
1912年ニハ

デアルカラ、一九〇四年ヨリ一九一二年マデノ
八年間ニ約八百億弗ヲ増加シタ譯デアルガ、此
中ニハ土地(土地ノ上ノ改良ヲ含メテ)ノ増價四
百八十億弗ガアリ、其一年分約六十億弗ノ中ノ
三分二ハ純土地ノ増價ニ屬スル故、之ヲ除クト
スレバ、二十億弗ダケガ土地改良及建物ニ屬ス
ルモノトナル。而シテ土地以外ノ富ノ増加ハ一
九〇四年ヨリ一九一二年マデノ八年間ニ三百二
十億弗デアツテ、年平均四十億弗トナル。斯ク
テ合計六十億弗ガ單純ナル土地ノ増價以外ノ年
純増資額トイフベキモノデアル。

第四卷 (第五號 一三五) 七五五

* Roberts, America's ability to make foreign investments. (The Annals of the American Academy of Political and Social Science. Nov. 1916.)

右ハ一九〇四乃至一二年ノデアルガ、其後ノ増資ハ之ニ關スル報告ガナイカラ、正確ニ之ヲ知ルニ由ハナイガ、一體資本ノ増加ハ加速度ヲ以テ進ムモノユヘ、一九一二年ノハ右一九〇四乃至一二年平均ヨリハ大デアラウシ、今日ハ其一九一二年ノヨリモ大デアラウ。今日ハ多分米國ノ純増資年額七十五億弗位ハアラウ(純土地増價ヲ除ク)。此巨大ナル増資額ガ全部、海外放資ニナルコトハアリ得ナイガ、兎モ角彼ノ海外放資トナルヘキ源泉ハ斯ノ如ク大イ。然ラバ

三戰時中ノ海外放資額 如何トイフニ、先ツ一九一六年六月三十日ニ終ル二年間ノ米國ノ外國貿易ノ輸出超過(銀ヲ含ム)三、二七七、六〇〇、五三一、弗デ米國銀行ニ於ル外國ノ勘定ガ前ヨリモ三億弗多イ。此二口合計ニ五七七、六〇〇、五三一、弗ハ即チ外國ガ何等カノ方法ニテ米國ニテ決濟シナケレバナラヌモノデアル。而シテ斯ノ如キモノトシテ第一ニ右二年間ノ米國ニ於ケル金ノ輸入超過ガ四〇三、七六一、二一九、弗アル。第二ニ米國ヨリ外國ニ對シ利子配當トシ

テ支拂フヘキモノガアツテ、此ハ開戰以來漸次減少シタガ、尙右二年間ニ三億弗ハナケレバナラス。此ハ戰前ハ大抵米國ニテ再放資サレタガ、此戰爭ノ爲メ之ヲ本國ニ持去ルヘキ誘惑ガアツテ、其三分二ガ持行カレタ。此カ二億弗。

第三ニハ米國輸入ニ於ケル外國船賃ガ數年前ニハ年二千五百萬弗ト見積ラレタガ、此ガ右二年間ニ倍增シテ居ル。其二年分ガ一億弗。第四ニ贈物貯蓄及放資ノ爲メニ外國ヘノ送金ガ戰前ニハ年一億五千萬弗ト見積ラレタガ、此ガ戰時ニ入ツテ減少シテ、恐ラク右二年間ニ二億弗位デアラウ。第五ニ米國ノ海外旅行者ノ費用ハ米國ニ生活シ又ハ旅行シツツアル所ノ外國人ノ其ト匹敵スルユヘ除ク。其處デ右ノ合計ガ九〇三、七六一、二一九、弗トナル。此ダケガ決濟ヲ終ヘタモノデ、之ヲ前ノ三、五七七、六〇〇、五三一弗カラ控除スルト、殘リガ約二十七億弗トナル。此ガ米國有價證券ノ買戻ト米國ヨリ外國ヘノ貸付トニヨリテ決濟サレタ筈デアル。即チ右戰時中ノ米國ノ海外放資ハ年十三億五千萬弗許トイ

フコトトナル。

他ノ計算ハ、それガ百哩以上ノ線路ヲ有スル凡ヘテノ鐵道會社ニ尋合セテ得タル結果デア。之ニ依ルト、一九一五年二月一日ヨリ一九一五年七月三十一日マデノ六箇月間ニ、其鐵道ノ株及債券ノ外國所有ガ二、七〇五、四〇二、九六三弗ヨリ二、二二三、五七〇、八二八弗ニ下リ、一九一六年七月三十一日ニ終ル次ノ一年間ノ終ニハ一、四一五、六二八、五二八弗ニ下ツタ(右ハ凡ヘテ券面價ニテ)。而シテ右ノ一年半ノ間ニ買戻シタル市價ハ八九八、三九〇、九一〇弗トイフ。之ヲ一年ニ割當ルト約六億弗トナル。其他種々ノ事項ヲ斟酌シテ矢張り、米國ノ右期間ニ於ケル米國證券ノ買戻ト外國貸付トガ年十二億五千萬弗カラ十五億弗ノ間デアラウト推算セラ。ル。

四米國ノ對外債務 ハばるかん戰爭ノ破裂前ニ六十億弗ト見積ラレタガ、此時以來減少シテ、今日ハ券面價ニテ三十五億弗位トナツタデアラ。此戰爭ガ今一年モ續ケバ、米國ノ對外債權

ガ之ニ匹敵シ又ハ之ヲ超過スルコトナツテ、米國ハ其海外ニ對スル利子配當ノ支拂ニツイテ最早逆ヲ憂フル要ナキニ至ルデアラウ。其レ丈ケデモ彼ノ海外放資力ガ増加スル譯デア。ル。

(五)戰後米國ノ海外放資 右ニヨツテ米國ニハ海外放資ヲ爲スヘキ資源ガ豐富デアリ又益々増加シツツアルコトハ明カデア。ル。今後其幾許ガ出デ行クヤハ分ラヌガ、**(一)此戰爭ニヨリ米國人ニ海外放資ニ關スル意向ヲ生ジタコトデア。ルシ、**

(二)更ラニ米國ニ於ケル資本ノ報酬ガ益々減少スルノ傾アルニ、戰後歐洲ニモ南米支那等ノ未半開國ニモ大ナル報酬ヲ與フヘキ放資ノ途アルコトガ明トナルニ於テ、其利益ノ比較上、海外放資ノ國內放資ヨリモ有利ナルダケニテハ、海外放資ガ盛ニ行ハルルコトト考エラ。ル。 海外放資ノ行ハルル程度ハ主トシテ此利益ノ比較ガ決定スル。勿論放資ニ關スル意向ガナイト、假令海外放資ノ方ガ一層有利デアツテモ、之ヲ顧ミナイコトモアル。斯カル意向ハ一ニハ教育ノ力ニヨリテ進メラ。ル。**(三)其他、海外放資ガ販路**

雜錄 獨領殖民地ノ處分問題

ハ擴張ヲ生ズルコトノ理解モ、海外放資ヲ進ムルニ與ツテ力ガアル。斯クテ時ニ利益ノ比較上ハ多少不利ノ處デモ販路擴張ノ利アル場合ニハ尙ホ投資ガ行ハレ得ル。此モ廣義ノ教育ニヨリテ促ガサルル。デ米國ノ海外放資ノ盛ナナルニハ米國人ニ對シ尙若干ノ教育訓練ヲ要スルガ、兎ニ角其ノ益々盛ニ海外放資ヲ爲サントスル氣運ニ在ルコトハ爭ハレナイ。